

臨床研修管理委員会

《概要》

当院は厚生労働省指定臨床研修施設であり、初期研修プログラムに従って初期研修をおこなっている。当院単独コースの定員は各年度6名であり、大阪大学医学部附属病院とたすきがけプログラムとして、1年次当院、2年次大阪大学を1名、1年目大阪市立大学附属病院、2年目当院というたすきがけ研修コースも2名まで採用している。

研修については本年度より新制度となり、1年目内科6ヶ月が必修(一般内科3ヶ月、循環器内科2ヶ月、脳血管センター1ヶ月)、救急(麻酔科、救命救急センター)3ヶ月、必修選択科として外科3ヶ月(このうち2週間程度精神科の病院で研修)、2年目は地域医療(地域の開業医についての研修)1ヶ月、ささえあい人権団体 COML1週間、国際外来、救急隊同乗など院内研修1週間の他は自由選択となっている。

2年目研修医は旧制度により必修となっている小児科、産婦人科、精神科(白井病院で研修)、地域医療(保健所2週間、ささえあい人権団体 COML1週間、国際外来、救急隊同乗など院内研修1週間)を1ヶ月ずつ合計4ヵ月および選択科8ヵ月研修を行った。

平成21年度は、1年目研修医は当院単独コースの2名および大阪大学からのたすきがけ1名、大阪市立大学からのたすきがけ2名、2年目研修医は当院単独コース2名の計7名で研修を開始したが、1年目単独コースの1名が個人の事情により他院のコースに途中から移ることとなった。

平成19年度より1年目に府立泉州救命救急センターをローテートすることになっているが、2年目の選択期間に救命救急センターを選択する研修医もあるなど、府立泉州救命救急センターとの交流が十分行われており、救命救急センターとの合同症例検討会も開催している。また、麻酔科指導医の充足により麻酔科の選択研修も可能となり選択するものもあった。

外科救急が輪番制行っており救急患者をの診療に救急研修の症例を確保するためのためかかりつけ患者はもちろん救急搬送や、紹介患者については可能な限り受け入れる方針としている。また、年度後半より救急医の経験のある麻酔科医による救急カンファレンスを週1回開催している。

国際外来医療英語通訳が講師を担当する医療英会話教室を主として研修医を対象として月1回開催している。その他、研修全員を対象とした研修会として、臨床集談会を毎月1回、隔月CPCを開催している。

当研修管理委員会は月1回定例で行っており、臨床研修を行っていく中での当院の臨床研修プログラムの問題点や研修医の評価(EPOCHを用いて行っている)などのほか救急外来等でどの程度の医療行為などについても、論議している。研修医が単独ではならない医療行為についてはイントラネットに掲載している。